ふくしまの選択
岐路 2013
第3部 働く⑦

「ここで落ち着くことができれば」。会津に仕事と暮らしの場を移すことを決意した田沢さん夫妻＝会津若松市

（44）と妻の美香（42）が営む「ヘアーサロンタザワ」には、昔からのなじみ客以外にも、少しずつ会津の客も訪れるようになった。「ここで落ち着くことができれば」。美香はしみじみと語る。

東京電力福島第1原発から約4キロ離れた大熊町下野上にある「たざわ理容」。2008（平成20）年に店舗兼住宅を新築。新居での暮らしも落ち着いたころ、東日本大震災と原発事故が起きた。

小野町から飯舘村、栃木県鹿沼市、喜多方市や会津若松市のホテルと避難場所を転々とした。約3カ月後、避難先の会津若松市の東山温泉のホテルでなじみの客から散髪のリクエストがあった。はさみなどは一時帰宅の際に持ち出していた。久しぶりに手にしたはさみ。はじめは違和感があったが、敦は「自転車に乗るのと一緒で体が覚えていた」と振り返る。

会津若松市の仮設住宅の台所を即席の理容店にして徐々に仕事を再開。4畳ほどの広さに椅子を置き、流し台で洗髪した。2人は仮設暮らしの中で一つの決断をした。「店を始めるなら早い方がいい。年を取ってから店を再開しても、もうお客さんは来てくれないだろう」。同市での営業再開を決意し、建売住宅を購入、店舗を増築した。

大熊町の自宅は帰還困難区域。長男の表情は帰れるのか」。線量が水が出るというめないか校に入

汚染土回収 公開で実験
日大工学部など

日大工学部で行われた汚染土回収プロジェクトの公開実験

日大工学部ふるさと創生支援センターとセベック・エネルギー&ライフ（東京）などは29日、郡山市の同学部で汚染土回収プロジェクトの一般向け説明会と公開実験を実施した。

同プロジェクトは、除染作業者が安全かつ迅速に側溝などから汚染土を回収できるよう研究、開発している。

今回はプロジェクトの第1弾として開発した「側溝を対象とする沈降汚泥回収システム」を使用し、同学部内に設置したモデル側溝で汚染土回収作業を実演した。

同システムは、「側溝洗浄ロボット」がセミオートで側溝を高圧水で洗浄しながら汚染土を回収する。汚染土は「側溝洗浄ロボット支援ユニット車」の汚泥貯蔵タンクに運ばれる仕組み。その後、回収した汚染土と洗浄水の混合物を「汚水脱水処理装置」で脱水分離し、ろ過した洗浄水を側溝洗浄に再利用する。

同システムの特徴は、作業がセミオートになったことで作業者の安全、負担軽減を実現したほか、新たに開発した凝集沈降剤で洗浄水の循環使用が可能となり、途中給水の必要がなく作業全体の簡略化につながった。

セベック社によると、同システムはレンタル制で、料金は1日約5万円、月額約100万円を想定。業者から要望があれば、すぐに貸し出し可能という。問い合わせは同社（電話03・3515・2151）へ。

入退管理施設の運用開始
福島第1原発の正門脇

東京電力福島第1原発で30日、放射性物質による作業員の汚染調査や装備の脱着、線量計の貸し出しなど原発への入退管理を行う新たな施設の運用が始まった。

運用が始まったのは「入退域管理施設」で延べ床面積は約7600平方㍍。原発正門脇にあったPR施設を解体し、管理棟2棟と化学分析棟1棟を建設した。

ローン減免 改善要請
返済確約問題で弁護士会

東日本大震災の被災者の二重ローンを減免する制度に関し、仙台弁護士会は29日、関係者の調停役を担う運営委員会に手続きの改善を求めた。運営委が債務者に一定額の返済を事前に書面で確約させた問題が明らかになったため、仙台市で連絡協議会を開いた。

弁護士会によると、運営委の高木新二郎理事長らは約束に「拘束力がないようにする」と述べたが、手続きの撤回は明言しなかった。弁護士会の内田正之会長は記者会見し「債務者を萎縮させる行為だ」と批判し、引き続き見直しを求め